

☆ 校長の一考・熟考 ～6年生の出会い学習～ ☆



ここ最近、これほど人の話に心を動かされたことはありませんでした。6年生の子どもたちを対象に、浦狩知子さんがお話をいただいた内容は、自身の子どもさんからトランスジェンダー※であることの告白を受けて、どのような思いをしたのか、どのような行動を取ったのか、今、親としてどのような願いを持っているのかなどについてでした。

私には子どもが3人おり、既に3人とも成人していますが、もし私が浦狩さんと同じ立場であつたらと思いながら話に聞き入っていました。同時に、親として我が子の幸せを願う浦狩さんの思いの強さと大きさに、心が震えました。

浦狩さんは羽野在住の方で、子どもさんは戸木小学校の卒業生です。「中学3年生の冬休みに、子どもがものすごく真剣な声で、『お母さん、うちは高校は男子として入学したい。もう生理もスカートも限界。ごめんなさい、ごめんなさい。お母さんにうちの赤ちゃんも見せられない』と泣きながら告白されました。」と話をされました。6年生の子どもたちに笑顔を絶やさず優しく語りかけてみえましたが、それだけに当時の思いやその後の苦労や葛藤、それらを乗り越えてきた人としての強さを、その笑顔の後ろに強く感じました。

浦狩さんは、6年生の子どもたちに、「自分のことを認め、周りと違うところがあっても、その本人にとっては普通であり当たり前であることをしっかりと心に刻んでほしい。」という願いを伝えられました。浦狩さんの生の声を、6年生の子どもたちはどのように受け留め、自身の生活や生き方をどのように見直すのか、とても大事な学習のきっかけをいただきました。また、正しい知識を正確に知ることの大切さも改めて感じました。浦狩さんからLGBT（性的マイノリティ）に関する基礎知識を教えていただいた6年生は、本当に貴重な学習をしたと思います。

浦狩さんは、6年生の子どもたちに、「自分のことを認め、周りとは違うところがあっても、その本人にとっては普通であり当たり前であることをしっかりと心に刻んでほしい。」という願いを伝えられました。浦狩さんの生の声を、6年生の子どもたちはどのように受け留め、自身の生活や生き方をどのように見直すのか、とても大事な学習のきっかけをいただきました。また、正しい知識を正確に知ることの大切さも改めて感じました。浦狩さんからLGBT（性的マイノリティ）に関する基礎知識を教えていただいた6年生は、本当に貴重な学習をしたと思います。

私自身に話を戻します。もし自分の子どもなら、自分はどんな親でいただろう。現実を認めることができたかどうか。偏見を拭いきれなかったり、世間体を気にしたりして、我が子を更に追いつめてはいなかったかどうか。浦狩さんのように、突然カミングアウトした我が子を、一瞬でありのままに受け留めることができたかどうか。自分自身の価値観を大きく揺さぶられる思いがしました。貴重な出会いの機会を快く引き受けてくださった浦狩さんに感謝いたします。本当に有難うございました。この6年生の学習の経過を見守りながら、私自身も学んでいきたいと思っています。

※トランスジェンダー：生まれたときの体の性とは異なる性別を生きる・生きたいと望む人